

ふるさと応援団員からの便り

校庭のセンダンの木



栗原 弘 ひろむ

京都府在住
中村天神橋出身
昭和20年生まれ

私は、48年ぶりに中村生活を9ヶ月程楽しんだ。その際、下田小学校で読み聞かせの経験をした。控え室の校長室から校庭を見るとセンダンの木があった。

そういえば、自分の小学校時代といえば、センダンの木が思い出される。中村小学校には校庭の中央部にセンダンの木があった。校庭で遊んでいても必ずセンダンの木を目にした。運動会時には万国旗がその木に取り付けられていた。今では切られて見る事ができない。

考えてみれば、広い校庭の真ん中に何故センダンの木が植えられていたのか。しかも、それは小学校だけで、中学校や高校にはなかったと記憶している。調べてみると、センダンの木は、下田小や中村小のみならず、具同小、東山

小、口屋内小、藤ノ川小など四十市のほとんどの小学校にかつては植えられていたが、今は木が植えられた意味が忘れられ、ほとんど切られてしまったようである。

全国的にみても、西日本の小学校にはセンダンの木が植えられており、立派な樹形を校庭にその姿を見ることができ。センダンの木に思い出を持っている人は少なくないはずである。

小学校の校庭にセンダンが植えられたのは、「梅檀めだんは双葉より芳かほしかほ梅檀めだんの木は生えたての時から香気があるように、優れた人間は子供の時より凡人より優れている」という諺に基いているようである。この諺が、日本に広くいきわたっており、小学校が設立されると、校庭にセンダンの木が植えられたようである。

ただし、この諺は日本生まれで、二つの重大な誤りが複合して日本中に広がった。一つは、センダンは古代では「あうちあうち(棟)」と呼ばれていたが、いつの頃からか「せんだん」と呼ばれるようになり、本来インドの木を意味していた(梅檀)という漢字があてられ

てしまった。また一つは、日本の「あうち」もインドの「梅檀」も双葉には香気がないにもかかわらず、鎌倉時代の書物である『撰集抄せんしゅう』にこの諺が書かれ、広く普及していたため、センダンの双葉には香気があると日本人が信じるようになったようである。

いずれにしても、「梅檀は双葉より芳し」という諺を信じた明治時代の日本の親たちは、わが村に小学校が設立されると、子供達が早くからその才能を発揮するようにと願いを込めて校庭にセンダンの木を植えたのである。誤解に基づいた行為であったとはいえ、当時の親たちは、我が子の成長を祈って真心こめてセンダンの木を植えたのであるから、今となつては貴重な文化財である。

現在でも残されている下田小、本村小などのセンダンの木を伐採することなく、永く後世に伝えて欲しい。

歴史学者

中村高校卒業。

同志社大学大学院博士課程修了。

同大学文学博士。

元名古屋文理大学教授。

今年『万葉時代婚姻の研究―双系家族の結婚と離婚―』(刀水書房)を出版。